令和４年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立千寿桜小学校
校　長　　渡辺　　円

１　学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、児童並びに地域の実態に即し、国際化、高度情報化の時代に対応できる知・徳・体の調和のとれた心豊かな児童の育成を目指し、次の目標の達成を図る。

・学ぶ喜び　　・ふれあう喜び　　・鍛える喜び　をもつ子ども

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	～児童・保護者・地域から信頼され愛される学校～ ・基礎学力が定着し、豊かな心が育ち、いじめを許さない学校 ・全教職員が創意を発揮し、熱意と誠意をもって、協働している学校 ・家庭、地域、異校種、関係機関等と連携し、安全・安心で開かれた学校
○児童・生徒像	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」が育まれ、将来の社会を生き抜く力の基礎が育っている児童 ・互いの気持ちを思いやり、人権を尊重し、規範意識をもった児童 ・進んで運動に親しみ、心身を鍛える健康な児童 ・大きな夢をもち、自分の課題を最後までやり遂げる児童
○教師像	・使命感、熱意、愛情をもち、社会性に富んだ教師 ・楽しい授業、よく分かる授業、主体的に学ぶ授業を工夫できる教師 ・安全、安心に配慮し、一人一人を大切にした教育を推進する教師 ・保護者や地域の人々と連携し、児童や保護者、地域から信頼される教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

１　基礎学力の定着と主体的に問題を解決する力の育成

４月に実施した区の学力調査では目標を大きく上回り通過率 85％を達成できた。これまで苦手としていた漢字やローマ字等の語句に関する理解の定着が図られたことが大きな要因である。令和元年度から実施している「桜☆学習コンテスト」の取組が充実したことで、漢字や計算、ローマ字、都道府県名等、努力すれば必ず理解できる内容の定着が図られてと考えられる。

また、区の指導力向上中核校としての研究を通し、理科好きな児童が増えている。特に教師の指示が無くても主体的に問題解決する姿が見られ始めている。今後も観察・実験やものづくりを中心として、科学的に考える力の育成を図る。ＭＩＭの取組では３rd ステージ児童が減少してきた。

２　基礎体力の定着向上と健康な体の育成

昨年度はコロナ禍での運動制限や校庭改修工事のため、思い切って体を動かすことができない日が続いた。その結果、体力調査結果では、都平均を上回った種目が半分程度しかなかった。今後は、アスリート招聘等を通じて、体力の向上を図るとともに運動好きな児童を育成していく。

３　いじめがなく、毎日楽しく通える学校づくり

いじめはいつ、どこにでも発生するという意識を全教職員が共有するとともに、「いじめ防止対策委員会」において、毎月いじめに発展しそうな案件を洗い出し、学級担任等からの聞き取り対応を迅速に行っている。いじめの早期対応を図ることで、継続するいじめの件数０を目指していく。また「相談する相手がいない」と回答した児童へフォローアップや、あいさつ運動を充実させ、児童アンケートや保護者アンケートの肯定的な回答率を高める。

4　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	基礎体力の定着・向上（投力を柱として）と健康な体の育成			○		
3	思いやりの心の育成といじめ対策の強化					

5　令和４年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

A　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
①学習の基礎である「読む力」「書く力」「語句理解」の定着 ②基礎的な計算力の育成	①４月　通過率各教科 85% ②桜☆学習コンテストで漢字算数テスト最終合格者 95%	①国語 88.1%　算数 92.3% ②95%達成のクラスは５割	4･6 年の国語のみ、85%を超えなかった。 学習の定着状況と具体的な取組は６（１）を参照	○

B　目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象 実施教科	頻度 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ･何を･どの程度）	実施結果	コメント･課題	達成度 ◎○△●
1 新規	AI ドリルの活用	第３学年以上 主に算数	週 2 回以上	パワーアップタイムと放課後補習の併用で AI ドリルを活用した復習問題や補習を実施	桜☆学習コンテスト、計算での満点数	２回実施までに 90%合格	計算での満点者は、80%以上	AI ドリルの利活用は全学年で日常的な取り組みとして、一層充実させる	◎
2	宿題以外の家庭学習の取組	第２学年以上 全教科	年間（2 年は後期から）	家庭学習習の習慣化と興味ある学習等で自ら課題設定し追究する力の育成を目的に ・宿題とは別に自ら考えた課題で家庭学習を行う ・模範となる自習ノートのデータベース化	①各学年の模範ノートをデジタル化してフォルダ管理 ②児童アンケート	①10 月までに全学年 10 例以上を掲載 ②家で宿題以外の勉強をする児童 70%	①掲載は計画通り実施できた。デジタル化は 4 年生以上で完了 ②２年生以上では、63.2%の児童が自主学習をしていると回答	自主的に課題を設定し、自ら解決する取組は、今後も学校全体での取り組みとして重点的に推進する	○

3	桜☆学習コンテスト	全学年 国語 算数 社会	７月 ９月 １月	・長期休業前に漢字・算数・ローマ字・23 区・都道府県名の課題を課す ・長期休業明けにテスト ・コンテスト期間内であれば何度でも再受験	全員満点となるよう各回で３回以上実施	３回実施までに各 95％が合格	最終合格するまで、何度も取り組ませている。	ｺﾝﾃｽﾄの課題を見直し、来年度に向け精査中。AI ドリルやｸﾛﾑﾌﾞｯｸでの自主学習も取り入れる	◎
4	ＭＩＭ－ＰＭフォローアップ	第１学年 第２学年 国語	年間	・「MIM-PM→フォローアップ指導→再アセスメント」のサイクルを定着 ・夏季自習教室で第１学年のみ「MIM-PM→フォローアップ指導」を実施 ・第２学年で、年間３回以上 MIM アセスメントを実施	ＭＩＭ－ＰＭの結果	①７月までにサイクルを全学級実施 ②２月までに 3rd ステージを 10％未満 ③第２学年７月までにMIMアセスメントを実施し3rdステージ児童には、夏季補習を実施	①達成 ②集計中 12 月時点で 3rd ステージ児童 35％ ③実施した	1 年生を初めて担任する教員ばかりだったので、学習ｽﾀｲﾙの定着に時間がかかった。 校内研修で全教員が MIM の仕組みを理解することで、今後に生かしていく	○
5	短作文の取組	全学年	週１回	・各教科領域で低学年 100 文字程度、高学年 200 文字程度の短作文を習慣化 ・テーマや書き出し読む対象等を工夫し書く力を身に付けさせる	学級担任からの聞き取り	年間 30 回以上短作文に取り組んだ学級数 80％	集計中 16 学級中 5 学級が 30 回以上、3 学級が 20 回以上実施	機会をとらえ、紙に鉛筆で書く活動、ｸﾛﾑﾌﾞｯｸで文章を打ち込む活動と幅を広げて取り組ませる	○
6	体験活動を通して、主体的に問題解決する児童の育成	全学年	年６回	・体験を通して主体的に学ぶ自児童を育成するための研究授業の実施	校内研究を通して	①１月までに６回以上の研究授業を実施し、区内へ公開 ②自分で不思議を発見しなぞを解き明かそうとしていると回答する児童 70％	①実施 ②70.4％の児童が「不思議だと思ったことは、自分で調べる」と回答	児童ｱﾝｹｰﾄで、 勉強することは大切 95.5％ 授業は分かりやすい 92.7％ 探検をしたり、身の回りの物を観察したりするのが好き 82％	◎

重点的な取組事項－２	基礎体力の定着・向上（投力を柱として）と健康な体の育成

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
「投げる力」を重点として、体力の向上を図る。また、瞬発力を高めるための取組を実施する。	「ソフトボール投げ」の東京都Ｔスコアを第３学年以上で 50 以上	第３学年以上での平均Ｔスコアは、51.2 達成しなかったのは、 5 年男子 49.4、6 年男子 49.8	投力向上が図れている。通年で取り組めるよう、継続する。	◎

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎体力の向上 （課題種目の改善）	・ソフトボール投げ第３学年以上でＴスコア 50 以上 ・全学年男女全種目のうち 60%以上が都平均以上	・投げ方教室 ・Ｔボールを主運動とした取組（感染対策） ・長縄、短縄、持久走の取組期間を設定	3 年　男子 50.1、女子 52.3 4 年　男子 51.1、女子 51.3 5 年　男子 49.4、女子 53.2 4 年　男子 49.8、女子 52.9 全体的に女子の結果が良好 全学年全種目のうち 61 項目 63.5%が都平均を超えた。	体力調査結果としては、長座体前屈、20mシャトルランの2種目が学校としての課題である。	◎
教員の体育指導力の向上	・年２回の体育実技研修会を実施する。	・２領域以上で実技研修会 ・自主研修会で体育研修実施	・体つくり運動、走・跳の運動、水泳運動の３領域で実技研修を実施。	体力向上と安全な授業展開について、今後も継続して研修を重ねていく。	◎

重点的な取組事項－３	思いやりの心の育成といじめ対策の強化

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・いじめ防止の徹底と早期発見、早期対応、早期解決、深刻ないじめ根絶 ・体験的な学習や地域と触れ合う行事をとおして、地域に見守られ、安心して通える学校とする。	・４か月以上継続するいじめの件数を０にする ・児童アンケートで「安心して、楽しく学校に来ることができた」の肯定評価を 90%以上にする	・４か月以上継続するいじめの件数は０であった。 ・「安心して、楽しく学校に来ることができた」の肯定評価 88.8%	児童にとって、自分の居場所があり、安全で安心な学校となるよう、一層努力を重ねる。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

いじめ･暴力行為の根絶	①いじめの疑いとして認知した件数を 500 件以上 ②いじめとして把握した場合児童と保護者の不安を年度内にすべて解消	･いじめアンケートで「相談できる人がいない」児童を全職員で共通理解（10 月） ･アンケート内容を管理職がすべて把握 ･いじめ防止研修会を年５回以上実施 ･毎月委員会を開催し担任等からヒアリング ・生活指導夕会を週 1 回実施	・「相談できる 人がいない」児童は３人（11 月） ・アンケート内容を管理職がすべて把握 ・いじめ防止研修会年５回以上実施 ・毎月委員会を開催し担任等からヒアリング 198 件 ・生活指導夕会を週 1 回実施	・いじめ一覧表をもとに、毎月の委員会で全件聞き取りと対応の確認をした。 ・認知件数は増加した が、些細な案件も報告されている	◎
思いやりの心の育成	①保護者アンケートで「学校は思いやりの心を育て、いじめ防止に努力している」の肯定評価 90% ②児童アンケートで「安心して、楽しく学校へ来ることができた」の肯定評価 90%	・幼保小連携、小中連携の工夫（間接交流） ・地域にかかわる体験活動や本物に触れる活動等を各学年２回以上実施。 ・学校の安全点検を毎月実施、危険個所の対応を即時行う	・保護者アンケートで「学校は思いやりの心を育て､いじめ防止に努力している」の肯定評価 84.2% ・児童アンケートで「安心して、楽しく学校へ来ることができた」の肯定評価 88.8% ・本物に触れる活動は、各学年２件以上新規に実施。	学校が指導していることは伝っているが、子ども達に十分身に付いていると保護者が実感するまでには至っていない。集団生活で思いやりをもつことは何よりも大切なことであるので、重点指導する	○

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

学力向上アクションプランについて

【課題】基礎的知識の定着を図る桜☆学習コンテストの合格率の向上、表現する力を伸ばすために短作文の取組の充実、MIM 指導の充実

【対策】次年度はﾓｼﾞｭｰﾙ学習を取り入れ、年間を通して言語に関わる学習を朝の時間に実施する。

水曜日を 4 時間授業とし、会議や教材研究を実施する時間とする。

これまでの研究成果を生かし、授業力向上中核校（理科）としての取組を継続させる。

（２）保護者や地域へのメッセージ

新型コロナウイルス感染症による教育活動の制限が徐々に解かれ、従来の活動の姿に戻りつつある部分もある。来年度は保護者や地域の皆様により広く学校を開く機会を設けながら、本校の児童のすばらしさ、教職員の姿を見取ってもらいたいと考えます。児童の健全育成のために、開かれた学校づくり協議会による様々な活動も工夫していきたいと考えています。次年度は学級数が 16 から 17 に増加します。児童数の増加は学校の元気の源であります。保護者や地域の皆様のお力を借りながら、よりよい千寿桜小学校を、教職員一同力を結集してつくってまいります。

（３）その他（学校教育活動全般について）

ＩＣＴを活用した教育活動を一層推進しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、工夫をしていきます。また、本校の特色であるオープンスペースを有効に活用し、教育活動を展開していきます。